

2015 年に AAEE, アジア教育交流研究機構が開始したメロ・サティ・プロジェクト。

今回で 12 回目となるネパールと日本の学生による国際交流プログラムが始まった。参加者は日本人学生(東京経済大学関昭典ゼミの学生)とネパール人学生それぞれ 10 名。

厳しい選考を経た精鋭国際学生チームはこれから二週間、ネパール各地(ヌワコット、ポカラ、パルパ)を旅しながら友好を深め、我が国の多様な文化や伝統を共有する。東京経済大学の関昭典教授が全行程同行する。

プログラムコーディネーターのシティーズ・バットライさんは「このプログラムを通じて日本人学生とネパール人学生が互いの知識や経験を共有し、強い絆が生まれる事を願っている」と気合たっぷり。

バットライさんによれば、当プログラムは他の組織から資金提供を得ておらず、参加者自身の個人負担によって運営されているとのこと。各地での様々な交流活動を通じて、文化や伝統、そこで暮らす人々の価値観を共に学ぶ。さらに今回はメロ・サティ・プログラムの参加者によって選ばれたネパール人生徒(シャムロックスクールの生徒)へ教育資金援助も行うとのこと。

東京経済大学 関昭典教授は「AAEE によるネパールと日本の国際交流プログラムが、両国友好の懸け橋となり、互いの学生から学び合う場ともなることを信じて取り組んできた」と話す。日本の JICA (国際協力機構) も AAEE の活動の普及を後押ししてくれているとのこと。

日本人チームのリーダーである石野田明日葉さん(東京経済大学学生)は「ネパール人参加者と共にネパールで活動をするこの旅は、私たちにとって一生忘れられない素晴らしい経験となるだろう。プログラムを通じて私たちは深い絆で結ばれるに違いない」と語った。

ポカラでは、東京経済大学の学生が指導教員である関教授やネパールの学生と共にシャムロックスクールで「ネパールー日本国際学生サミット 2019」を開催する。サミットの主な目的は「グローバルパートナーシップ (国連 SDGs の目標でもある)」の促進にある。

日本人学生とネパール人学生との間で我々の将来展望や教育体制、価値観などについての考えを共有する。両国の貧困についての劇やプレゼンテーションの他、文化パフォーマンスから始まり、シャムロックスクールの生徒との議論を経て、なんと世界に向けての共同声明まで発表するそうだ。

また、東京経済大学教授の関昭典さんと彼のゼミ生が AAEE の学生たちと共同で挑戦したクラウドファンディング (シャムロックスクールの生徒のうち 1 人の教育をサポートするため) の経緯も初めて公表される。AAEE の学生たちや関係者、シャムロックスクールの教職員、皆の努力により、ぜひメロ・サティ・プロジェクトを成功させてほしい。

(日本語訳：関昭典ゼミナール)